



## 表紙のことば

9月の日曜日、市内各地区で地区体育祭が行われました。

三川地区では見取・大谷・友永・萱岡・川会・山田の6つの自治会の皆さんが会場の三川小学校に集合。騎馬戦や綱引き、風船割り競争など、10種目を超える競技に汗を流しました。

ムカデリレーでは5人1組「イチ、二！イチ、二！」と掛け声合わせて一歩一歩進んでいきます。途中、転んでしまうチームもあったけれど、息の合ったチームプレーでゴールを目指していました。

## 市民の動き

人口／86,842人 (前月比+56人)

(外国人登録者4,137人含む)

男性／43,832人 (前月比+40人)

女性／43,010人 (前月比+16人)

世帯数／30,642世帯 (前月比+38世帯)

平成20年9月1日現在

広報

ふくろい



袋井市の市章

2008年(平成20年)10月1日発行 第85号

編集・発行／  
袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係  
〒437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1  
TEL 0538-43-2111 (代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

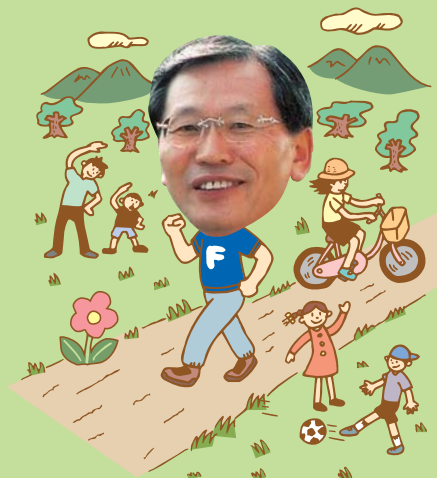
[hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp](mailto:hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp)

**R100** 古紙配合率100%再生紙を使用しています

# 原田市長の

さんぽみち

# 散歩道



秋祭りに向けた笛や太鼓の音色が聞こえてくると、稲の穂が重くなり垂れ下がる。一面黄金色になった田や刈り取った後の田でえさをついでむ白サギは、袋井に似合う景色だ。

本市の基幹作物の米は、市内で約9,050トン収穫される。統計上1人当たり年間に61kg消費するので、本市の必要量は、5,300トンで、自給率は170%になることになる。

品種は量の多い順に「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」と続くが、「コシヒカリ」などよりタンパク質の低い「LGCソフト」や1.5倍大粒で香りも強くおいしい「龍の瞳」も袋井ブランド米として作られ始めている。

最近、汚染米が国内で出回り、

## 「お米」

米の安全性が脅かされる事が起こった。大阪の米粉加工販売会社が販売した発ガン性のあるカビや残留農薬を含む米がせんべいや焼酎の原料とされたり、病院や高齢者の施設の給食として使われたりして問題になった。

この米は、国内農業を保護する

ために仕方なくミニマムアクセスとして、加工用に中国や米国などから輸入されたものであるが、食物ゆえに安全でなければ、理由はなんであれ、輸入を禁止しなければならぬ。なお、市内の幼稚園、小・中学校の給食は、袋井産を100%使い、200項目の残留農

薬検査を行っているので安心です。

40%と外国に比べて極端に低い日本の食料自給率を上げるために、今、米の消費量を増やすことが求められている。そのために、小麦がパンやラーメン、てんぷら粉、ギョウザの皮などいろいろなものに使われているのと同様に、米も数多くの使い方がされ始めた。

米は、炊いて御飯として食べるのが一番おいしいと思う。しかし、年々高値になっている輸入小麦にいつまでも依存しているのも日本の食料確保の面でもよくないので、米を使った新しい、おいしい食べ物をごしどし作り出していくことが大切で、私たちもそれを積極的に食べることが必要と思う。